The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	LMSを使った学生とのコミュニケーション
Author(s)	岩居, 弘樹
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2011, 11, p. 39-40
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70303
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

LMS を使った学生とのコミュニケーション

岩居 弘樹（大阪大学 大学教育実践センター カリキュラム開発部門）

e-leaning システム（LMS）は、一般に遠隔講義のためのシステム、授業外での予習復習のためのシステムとして使われることが多いかと思われます。WebCT を利用されている方も、講義資料の配布やレポート提出のためのツールとして使われることが多いのではないでしょうか？

私が担当するドイツ語の授業では、学習したドイツ語を使用している場面をビデオ撮影し、LMS にアップロードしてお互いに評価するというスタイルをとっています。4 人程度のグループに分け、デジタルビデオカメラを 10 台程度使って各グループが並行して撮影を行います。そして、撮影したビデオを LMS 上にアップロードし、お互いに見あってドイツ語や気になる点をチェックします。普段の授業では、1 セメスターに 2 回行うビデオ撮影に向けてグループワークを中心に毎回準備を重ねていきます。

ここでは、このアクティブラーニングのひとつの柱となっている日誌（Journal）機能の活用についてご紹介したいと思います[1]。

日誌は、教員と学生の間のコミュニケーションを支えるツールの一つです。ある学生と教員のやりとりはほかの学生は見ることはできません。学生には、授業終了後 1 週間以内に、その授業で学んだこと、感じたこと、疑問、困ったことなどを書くように指示しています。私はこの日誌を「今日のひとこと」と名づけて活用しています。

「今日のひとこと」には、例えば

- 1 学期も 2 週間目に突入。大学の空気に慣れてきましたか？ドイツ語はどうでしょう？先週覚えた（つもりの）フレーズは頭に残っていましたか？今日も、印象に残ったこと、疑問に思ったことなどいろいろと書いてくださいね。（2 回目の授業・2010 年 4 月）
- 文法的には動詞の現在人称変化が入ってきて、単語もたくさん出てきました。そろそろビデオ撮影の準備が始まったということですね！！梅雨になる前に、外で授業してビデオ撮影するのも良いかもしれないなと思いました。覚悟の程はどうでしょう？どれくらいドイツ語がからだに入った感じがしますか？（5 回目の授業・2010 年 5 月）

のように、教員からのメッセージを書き、これに対して学生が答えるという形になっています。「好きなことを書いてください」と言っても何を書けばいいのか困るでしょうから、このようにしています。学生からは毎回さまざまなメッセージが送られてきます。ごく一部ですが、内容に応じて少し分類してご紹介します。

授業について：

- 動詞の変化がややこしいです。全部一緒でいいやん!!!とか思ってしまいます。楽しいですけどね、ドイツ語。でも難しいなあ（´。`）（女）
- You Tube で発音を繰り返し聞き、ややこしいアルファベットをやっと覚えられてきたかと思えば、今日は二桁の数字を勉強し、また混乱してきました・・・・・・・・・・・・・・0〜9 でさえまだ覚えきれていない数字もあったのですが、今日皆で発音したときに皆覚えているようだったので焦りました。もっとがんばろうと思います。（女）
- もう少し文法についての授業をしてほしいです。（男）
- やっとドイツ語の”授業”らしいことをやった気がする。（男）
- 名詞を覚えるのは漠然としすぎて難しかったです。（男）

ビデオ撮影について：

- 結局、ペアの友達と我が家で、泊まり込み練習を

[1] 日誌機能は、WebCT のディスカッションボードにもありますが、私は LMS の研究のために Moodle を使用しています。

しました!!笑　家での練習中は「明日は一発撮りでも大丈夫だ」と自信満々だったのですが、いざ撮り始めると緊張でガタガタでした。（女）

- （ビデオ撮影をして）自分は、思っているより小さいんだとすごく思いました。声は、低い声をしているなあと思いました。（男）
- やっているときは大きな声で話していたつもりでも、あとからビデオを見ると普通に聞こえていました。自分自身の感じ方とまわりからみえる自分とはどうやら色々と異なるようです。（女）
- 自分のニヤニヤ顔は言うまでもなく、声はもっと気持ち悪かったです。ええー？！私もっとマシな声出してると思ってたのにー。。。みたいな。（女）

近況報告など：

- ゴールデンウィークは香川に帰省しました。久しぶりに母の手料理を食べて、美味しさにちょっと泣きそうになりました。大阪に帰ってきてしばらくは寂しかったです。（女）
- 現役の一回生にまだ若いです、って言われたんで何とかやっていけそうです(笑)（男　再履修）
- ボランティアで先日小豆島まで行って、ダム問題についての集会とデモに参加してきました。住民の人たちとふれあい、またダム建設の何が間違っているのかをはっきりさせて自分の中で考えが固まったので良かったです。（男）

学生からの書き込みには必ずコメントを返すようにしています。学生からの質問があればコメント欄で解説することができますし、必要があれば次回の授業の際にクラス全体で考えることもできます。授業に関しての悩みが書かれていれば、簡単なアドバイスができます。授業とは関係ない日常生活でのちょっとした話題でも、パーソナルコンタクトをとるきっかけになります。

授業中に見る姿と日誌のメッセージが一致しない学生が時々います。授業中は無口でひとりでもの静かにしているある学生が、日誌には毎回長文のメッセージを送ってきました。この学生とは直接話をすることはほとんどありませんでしたが、半期 15 回のやりとりを 1 本のファイルにまとめてみたところ、約 1 万字にもなっていて非常に驚きました。また数年前にあった深刻なケースですが、友達の前では元気な顔をしているけれど、親の経済状況が急変して仕送りが来なくなりまともな食事をとっていないということが日誌を通してわかったということもありました。

「今日のひとこと」をはじめて 6 年ほどになります。この間の学生とのやりとりを振り返ってみて、学生たちは教員や TA とのコンタクトを求めているということを改めて実感しています。授業中の限られた時間内で学生ひとりひとりと話をすることは困難です。授業が終わったあとも、教室移動や食事のために話をする余裕はありません。オフィスアワーにひとりで教員の研究室に来るのは、特に 1 年生にはためらいがあるでしょう。そもそも、教員と直接話をすることに抵抗がある学生もいると思います。しかし今の学生は携帯メールなどでの文字によるコミュニケーションに慣れている世代ですから、日誌のようなツールでコンタクトをとることには抵抗が少ないようです。

LMS などの IT ツールを活用して授業を活性化するという試みは各大学で行われており成功事例もたくさん報告されていますが、私は、LMS を学生ひとりひとりの声を聴きコミュニケーションをとるためのツールとしても有効なのではないかと考えています。CALL 教室という非常に恵まれた環境を与えていただいたおかげで、IT 技術による学生とのコミュニケーションの可能性を知ることができました。感謝申し上げます。

日誌機能や今回ご紹介した学生からのメッセージの詳細については、大学教育実践センターの刊行物で報告する予定です。WebCT や Moodle などの日誌機能についてご興味があれば、以下のアドレスまでお問い合わせください。

（メールアドレス：iwai@cep.osaka-u.ac.jp）